

さいばい ニュース

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237
神奈川県三浦市三崎町
城ヶ島養老子
☎ 046(882)6980
FAX046(881)2233
http://www.kanagawa-sfa.or.jp

No.113

令和3年度 種苗放流事業

令和3年度の種苗生産供給と幹旋供給事業は、マダイ、ヒラメ、カサゴ、トラフグ、メバル、マガレイ、クロダイ、アワビ、サザエ、トコブシを行いました。その内のマダイ、ヒラメ、カサゴについて放流場所、放流時期、大きさなどの内訳を紹介します。

マダイ

令和3年度マダイ種苗放流事業は、東京湾と相模湾で行われました。2021年7月9日の腰越港から7月30日の久里浜港までの13か所で行い、久里浜港以外は、当協会のマダイ稚魚飼育池から8トンの活魚車で



放流されるマダイ種苗

港まで運び、活魚車からそれぞれの港で、直接ホ

1スで海へ放流しました。久里浜では、遊漁船に積み替えて、久里浜の沖合にある漁場へと運び放流しました。

表に記載してある事業分とは、栽培漁業協会のマダイ種苗放流事業分で合計15万尾、協力は、1昨年にマダイ釣人・釣

船協力 金分6万9500尾、一般社団法人日本釣用品工業会が東京湾に9万8000尾、公益財団法人相模湾水産振興事業団が福浦から葉山まで7万尾、西部事業団分は、一般財団法人横須賀西部水産振興事業団が大楠漁港で8000尾、南部事業団分は一般財団法人東京湾南部水産振興事業団が2万5000尾、



海藻の間泳ぐ放流されたマダイ種苗

00尾を久里浜に、また江の島片瀬漁協は4120尾を放流しました。このように、令和3年度に神奈川県沿岸地先に放流したマダイの合計は、42万4620尾になりました。

※マダイ種苗放流実績表は2面に掲載

新年のご挨拶



公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会
理事長 高橋 征人



数の死者が出る事態となつています。

日本でも2021年9月30日に第五波の緊急事態宣言が解除されましたが、第六波に備えて、感染予防と病床確保の体制を整える必要性が言われています。

新年あけましてましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が発症し、2年目になります。パンデミックが起こり、世界の人々が感染し、多

受けた業種があり、水産

業の持続・発展をするようにしてください。

皆様もリバウンドに気を付けて1日も早く、漁業の持続・発展をするようにしてください。



ヒラメ

ヒレをカットして標識放流

令和3年度のヒラメ種苗放流は、県下全体で24万9490尾でした。放流場所は東京湾と相模湾の17か所です。この放流は、昨年5月15日から7月17日までの間の10日間に行われました。栽培漁業協会の種苗放流事業では6万尾、種苗供給事業として公益財団法人相模湾水産振興事業団では6万3000尾、一般財団法人横須賀西部水産振興事業団では8000尾でした。(2面につづく)

潮騒

1968年に開館した三浦市三崎町小網代の京急油壺マリンパークは、昨年9月30日、53年間の歴史の幕を閉じました。機会あるごとに、同パークを訪れていた人が多く、来館者は2千400万人を越し、開館最終日には名残を惜しむ人たちが5000人以上が来館しました。同パークは、京浜急行電鉄70周年事業として68年4月、神奈川県立三崎水産高校跡地に開館しました。水族館として珍しい魚類を展示するだけでなく、魚の生態や能力を研究し、ショーとして見せることは当時としては画期的なことでした。また、キンメダイを国内で初めて展示し、さらに、大回遊水槽でマグロの泳ぐ姿を見せるとともに、その生態研究に取り組むなど、水産業界に役立つ業績も残しました。このほか、魚の習性を一般の人に知ってもらおうと、カワハギが紐を引いて旗を揚げたりイシダイが輪くぐりを披露する様子も公開されました。また、イルカショーも行い、来館者は大きな歓声を上げ、拍手していた姿も忘れられません。同パークは今年夏、インターネット上で「みんなの思い出と歴史を残そう」を公開する予定で、来館者の写真や資料を展示することにしています。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

相模湾遊漁問題
対話推進協議会

会長 久保田源太郎

〒250-0021
小田原市早川1-1-1
TEL 0465-215989
FAX 0465-215514

環境保全と水産業の振興を
公益財団法人
相模湾水産振興事業団

理事長 武井 正

〒250-0021
小田原市早川1-1-1
TEL 0465-215989
FAX 0465-215514

東京湾遊漁船業協同組合

理事長 飯島 正宏

〒140-0013
東京都品川区南大井1-19-6
TEL 03-6423-1091
FAX 03-6423-1097

公益社団法人
全国豊かな海づくり推進協会

会長 岸 宏

〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町九十六
小伝馬町松村ビル六階
TEL 03-5651-3501
FAX 03-5651-3502

令和3年度マダイ種苗放流事業の活魚車による放流(供給事業含む)

Table with columns: 月日, 輸送放流場所, 放流場所, 事業分, 協力金, 小計, 日釣工, 相模湾事業団, 西部事業団, 南部事業団, 江の島片瀬, 合計. Rows list various release locations and dates from July 9th to July 30th.



ヒラメ種苗放流

ヒラメ種苗は、各漁業協同組合の要望が大きく合わせて11万7990尾を放流しています。漁業協同組合には、共済組合の掛け金も含まれています。

再捕された方は、神奈川県栽培漁業協会へ再捕場所、全長もしくは体重、再捕漁具、再捕者のお名前、住所、電話番号をお知らせください。

また、岩礁に生息し、移動が少ない魚種で、放流の効果が期待されています。令和3年度のカサゴ種苗放流は11か所で行われました。今年度の種苗

カサゴは沿岸の刺し網漁業にとって重要な魚種です。

カサゴ



小網代湾奥に放流

マダイ種苗放流イベント

小網代パール海育隊 日本プレジャーボート協会

例年、三浦市内の小学生が社会科授業の一環として参加し、マダイ種苗の放流を体験するイベントですが、昨年は新型コロナウイルス感染症対策のため、小学生の参加は中止となり、NPO法人小網代パール海育隊のメンバーの手で放流が行われました。

NPO法人小網代パール海育隊

海育隊は、子どもたちが海の大切さや水産資源の重要性を知ってもらおうと、当協会が飼育しているマダイ種苗を確保して市内の小学生による放流体験事業に取り組んでいます。



城ヶ島東側の海に放流

昨年9月4日、(二社)日本プレジャーボート協会によるマダイ種苗放流が行われました。例年、三浦市三崎五丁目産直センター「うらり」から、小学生など一般の人を乗せて種苗放流を行ってききましたが、昨年はコロナ禍のため、同協会関係者だけで、約3000尾のマダイ種苗を2隻のクルーザーに乗り、城ヶ島の東側の海に放流しました。

同協会のこの事業は、平成5年から行われており、今年で29回目になります。

今年度は、令和3年度のカサゴ配布実績を掲載しています。

令和3年度カサゴ配布実績

Table with columns: 配布先, 配布数量, 配布月日, 放流場所. Lists distribution details for various organizations and locations.



放流された大きな種苗



カサゴ種苗放流

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会. 会長 杉山 武. Contact info: 〒254-0803 平塚市千石河岸二八一三

東京湾南部水産振興事業団. 理事長 岩崎 一郎. Contact info: 〒239-0831 神奈川県横須賀市久里浜八一九五

神奈川県漁業無線協会. 会長理事 小山 恭弘. Contact info: 〒238-0237 三浦市三崎町城ヶ島養老子

日本漁船保険組合 神奈川県支所. 運営委員長 鈴木 清. Contact info: 〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二一〇二

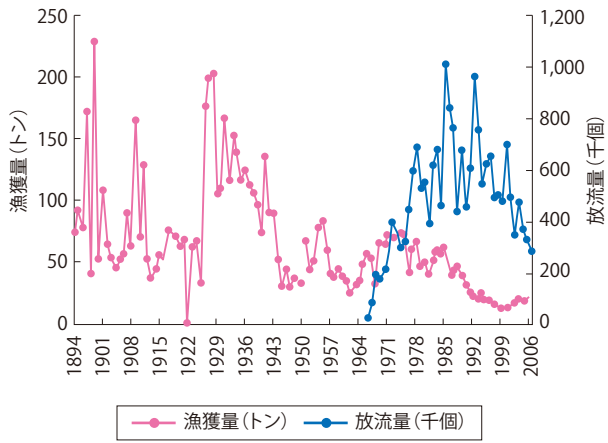
神奈川県漁業協同組合連合会. 代表理事長 高橋 征人. Contact info: 〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二一〇二

沿岸磯根地域の重要資源 アワビの漁獲歴史を見る

アワビは、江戸時代から素潜り漁業や見突き漁業で漁獲されており、明治になって西洋からヘルメット潜水が導入された結果、神奈川県では100〜200トンと、急激に漁獲が増加しました。

そのため、明治16年、城ヶ島の戸長加藤泰治郎氏が県令に対して上申書を提出し、これを禁止するように要望しています。1899年には228トン、1908年に63トンと減少しました。1909年に165トンと急激に増えた後、1925年に34トンに減少し、1928年に202トンと再び増え、昭和初期には1000トン台でしたが、1945年に30トンまで減少しました。

神奈川県のアワビ漁獲量の推移



そのために、明治16年、城ヶ島の戸長加藤泰治郎氏が県令に対して上申書を提出し、これを禁止するように要望しています。1899年には228トン、1908年に63トンと減少しました。1909年に165トンと急激に増えた後、1925年に34トンに減少し、1928年に202トンと再び増え、昭和初期には1000トン台でしたが、1945年に30トンまで減少しました。

を過剰に捕りすぎず、漁業の管理をすれば永く利用できる水産物であり、多くの漁業者がこの漁業で生活できる、と述べています。

アワビ漁獲量と種苗放流の関係

アワビの種苗放流は、1967年から1980年前半まで放流効果が明確に現れる時代でした。1980年代後半から漁獲物の中に放流貝が占める割合、混入率が90%以上となり、種苗放流した貝だけが漁獲されるようになり、天然再生産貝はわずかばかり漁獲されるに過ぎなかった時代です。一時的に2005年から2013年ごろまでクロアワビの天然貝が少し回復したものの放流貝によって漁獲物が占められていました。2015年ごろからアラメ・カジメの海中林がアイゴなどの植食動物による被害があり、磯焼け状況に至り、アワビの漁獲量は10トンを下回る状況となりました。

クロアワビは海底地形が複雑で岩棚の奥の方にマダカアワビは岩礁や転石の表面に棲んでいる習性があり、メガイアワビはクロアワビとマダカアワビの中間に棲んでいます。このことから、それぞれの地先に近い海底地形や漁業種類に適応したアワビの種類組成があったということになります。したがって、種苗放流をする際の種類は、かつて種苗放流する以前の種類組成に近い種類を放流することが適切ではないかと思えます。

栽培漁業つて何(31)

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会
専務理事 今井利為

マダイ⑪

計量が終わり次第、トラックのダンペに稚魚を収容します。



チョッパーでミソにした冷凍イワシやイカナゴを1日4〜5回与えていたので、

小割生簀は小網代湾の中央に設置しているのので、トラックは城ヶ島から小網代にあるシーボニアマリナーの岸壁まで10分ほどをかけて運びます。



作業の補助として大学の卒業生を多い年には6〜8人を交代制で当たらせていました。現在は、栄養的に整った人工配合飼料ができ、1人で投餌を担っています。

小割生簀に収容直後は直径0.25から0.45ミリメートルの粒子の餌で餌い始めます。放流前には直径3ミリメートルまで餌の粒子を大きくしていきます。

中間育成で人数を必要とする作業に網換えがあります。

陸上池から移送したマダイの稚魚はわずか体長20ミリメートル。この稚魚が逃げない網目は3ミリメートルで、目詰まりをすぐします。

したがって、網に収容してわずか3日目で網を交換しないと、海水の流動が網の中まで及ばず、酸素が欠乏する原因となります。

マダイの成長に合わせて、5、9、10ミリメートルのモジ網の目合いを大きくしていきます。

網換え作業は、魚が入っている網の半分を生簀の半ばまで引き寄せ、新しい網と連結して、魚を新しい網に移動させます。稚魚は、網で掬い取ると傷つき、死亡する原因となるので、網を使わず生簀網の交換をする作業は神経を使うことになります。この作業は、魚を逃がさず、丁寧に移動するため、最低4人で取り掛かる必要があります。

放流船
マダイが体長60から80ミリメートルに成長した段階で放流しています。これはふ化して約4か月間飼育したもので、昭和59年度から平成2年度までの放流は、神奈川県水産試験場の漁業調査指導船江の島丸を使っています。体長6センチメートルに成長したマダイは、江の島丸の活魚水槽に収容し、神奈川県沿岸各地に放流していました。

※現在は、小網代湾での中間育成は行っていません。放流地へ運び、放流しています。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

<p>株式会社リビエラリゾート シーボニアマリナー</p> <p>〒238-0225 三浦市三崎町小網代二二八六 TEL 046-882-2222</p>	<p>株式会社 鈴木組</p> <p>代表取締役 脇山 俊</p> <p>〒259-0201 足柄下郡真鶴町真鶴九九五二 TEL 046-516-8155</p>	<p>クロレラ工業株式会社 営業本部技術特販部</p> <p>〒833-0056 福岡県筑後市久富一三四三 TEL 094-215-2121 FAX 094-215-1723</p>	<p>(有)瀬戸活魚センター</p> <p>代表取締役社長 藤木 治夫</p> <p>〒720-0203 広島県福山市田尻町四二八九番地 TEL 084-956-1347 FAX 084-956-1347</p>	<p>焼肉食堂 げんこつや</p> <p>※和牛ブランドカルビ 一、一〇〇円</p> <p>店主 石坂 幸央</p> <p>〒240-0104 横須賀市芦名二〇一三 TEL 046-857-5229 定休日：毎週火曜、平日の月曜日</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

海底や水中生物などに貯蔵された二酸化炭素「ブルーカーボン」を知っていますか



二酸化炭素の吸収源—再生したアマモ場



カジメ藻場も酸素を作る

地球の温暖化が進み、化石燃料による二酸化炭素の排出が問題となっています。2030年までに気温上昇を1.5度C以下に抑えないと地球全体の気候、海洋に大きな変化をもたらす、北極・南極や氷河の氷が解けて海面上昇が起こり、人間が住むことができるところが狭くなっていくと予想されています。それだけではなく、砂漠化が進み、食糧の人口が増える恐れが心配されています。

地球温暖化を抑制するためには、交通手段として船舶、自動車などを電気・水素燃料にすることなどが計画されています。それと、石炭火力による発電所を減らし、ソーラーパネルや風力発電などの再生エネルギー利用率を上げていくことも必要です。

ただし、二酸化炭素の排出を抑制するだけでは二酸化炭素の濃度は下がらないと見られています。大気から別の場所へ移動させることが必要で、例えば森林とか海に吸収させることが重要です。大気中の二酸化炭素が海に吸収され、海底や水中生物などに貯蔵された炭素をブルーカーボンと呼びます。

水中には、海藻や海藻があり、それが光合成により二酸化炭素を吸収し、酸素と草藻体を作ります。今までは海藻は、水産物の餌として、また、栄養塩類の利用で水の浄化作用に注目してきましたが、これからは二酸化炭素の吸収でもその存在が重視されています。

アマモや藻場を創出した場合、新たな資金メカニズムが導入されました。第三者機関として審査認定委員会が認証した藻場造成を排出量の削減努力をしてもどうしても減らせない排出量を企業や団体等がクレジットを発行しNPOや市民団体等がカーボンオフセットとして活動資金の確保ができる制度が作られました。

その第1号として横浜ベイサイドマリーナにおける藻場づくりが認証され、横濱市漁業協同組合、NPO海辺つくり研究会、金沢八景・東京湾アマモ場再生会議に、2021年3月に証書が交付されました。

わが国最大の釣り具メーカーのシモノから、「マダイ資源の維持・増大に役立ててほしい」と、今年度も百万円の寄付をいただきました。同社は平成13年度から寄付を続けていただいております。

同社は、釣りを楽しむ人々に水産資源の大切さを知ってもらおうと、各種イベントを実施するほか、海浜清掃などの環境保全にも積極的に取り組んでいます。

計1万8000尾放流しました。このうち200尾に黄色いアンカータグ標識を付けて放流しました。放流した内訳は、東京湾南部水産振興事業団分が1万1000尾、



この魚を狙った釣りを楽しんでいきます。カワハギの口は小さく餌のアサリなどを、どのようにして喰わせるかが腕の見せ所だそうです。

新型コロナウイルスの感染問題は、水産業界にも大きなダメージを与えました。緊急事態宣言が発令され、ホテルなどの宿泊施設、海鮮レストランなどが休業に追い込まれ、水産物の需要の大幅減による魚価低迷に苦しめられました。

このような中であって当協会は、今年度も例年と同じようにマダイなど

あけましておめでとうございます

Brine Shrimp EGGS-90

株式会社 北村

〒604-0051 京都市中京区二条油小路町291
TEL 075-221-6695

公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

売上の一部が放流事業に寄付される自販機設置にご協力ください。

サントリービバレッジサービス株式会社

TEL 045-573-6366
FAX 045-573-2858

午後の紅茶

カワハギ種苗放流



カワハギ種苗放流



標識を付ける

当協会理事で横須賀市東部漁業協同組長、飛松正幸氏は令和3年11月6日にお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

訃報

野健彦代表が昨年11月4日当協会を訪れ、合計15万円を寄付してくれました。これに加え、同グループの神奈川ハマトイヤ(株)(品田基宏社長)も5万円を寄付してくれました。

贈呈式で黒田社長は「マリンレジャーを支える協会の事業は重要です。私たちは今後も支援を続けます」と話しました。

協会事業を支援する寄付

シモノ

わが国最大の釣り具メーカーのシモノから、「マダイ資源の維持・増大に役立ててほしい」と、今年度も百万円の寄付をいただきました。同社は平成13年度から寄付を続けていただいております。



KTグループから寄付

KTグループ

KTグループの神奈川トヨタ商事(株)の黒田圭次郎社長と同グループの上

編集後記

ただ、小学生や親子連れが参加する放流イベントが、昨年度は一度も開催できませんでした。昨秋からわが国では、新型コロナウイルス感染症が劇的に減少しており、今年は児童が参加し「大きく戻って来て」と声を掛けて放流するイベントが復活してほしいものだと思います。